

AJU

コンビニハウス

会報

編集/コンビニの会事務局  
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地  
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人  
コンビニの会

定価/150 円  
昭和 54 年 8 月 1 日第三種郵便物承認

第169号



汗だくになってサッカーをしている子供達、たまにアイス(1 個 15 円)を買ってあげる。

どこか似ている二つの国

グアテマラ在住 飲食店経営 辻 秀樹

初の女性村長が誕生した。観光産業の活性化を目指しているらしく、湖畔の清掃活動や観光産業に強い人材を募集したりと頑張っている。隣村に観光客をゴッソリ引き抜かれて、対岸への直通ボートも隣村に持って行かれてしまい、スッカリしょんぼりしていた村人も期待をふくらませている様だ。

隣村の村長はなかなかのやり手で展望台を作ったり、ボート桟橋を拡張したり、目抜き通りに観光客を誘導する動線作りなど精力的に取り組んでいたのだけれど、調子に乗りすぎて殺されてしまった。慣れてしまった僕にはグアテマラらしいなあ！ウフフとしかならないのだけれど、知らない人には怖い国となってしまう。

もう少し各村が協力すればいいものをみんながみんな一人勝ちしたくてたまらない、羨ましくなってしまうところがある。  
(次ページへ)

日本はインバウンドだ、オーバーツーリズムだと賑わっている、この数年で様変わりしたのだろうと思っていたのだけれど、ツーリストからは英語が通じず苦勞したとよく聞く。この村と同じなんだなあと、思ってたハツとした。やる事が過激かどうかは別としてこの二つの国はどこか似ていることに気がついた。共に貧困なのだと叫び、政府の無策を批判する。英語が出来たらいい仕事につけると言うのも同じだし、所得の低さ、自国通貨の弱さに泣くところまで、申し合わせたかのように似ていて驚いた。

両国の違いをあげるとすれば心の豊かさではないか。貧乏ではあるけれどどこか楽しそうに暮らす人々を見ていると子供の頃を思い出す。50年後、果たしてこの国はどう変わっているだろうか。



教会のイルミネーション

出店なども出るのだけれど、観光客というよりは地元民向けとなっているのが残念、そもそも観光客は夜間に外出しない。

### 雑記 ごまめの歯ざしり

#### 続・中うち八へん

一昨年までは三反の田んぼを10年くらい、野菜の片手間でぎなぎな(三重弁でゆっくりの意味)やってましたが、去年は二反増え、今年は大幅に2町歩超え。地域の田んぼを担ってたおじいさんが体もぼろぼろになってきたということで、手放した田んぼを僕が借り受けました。お米はやりたけれどそこまでやる気にはなってなかったの、自家用とちよつと近い人に販売ぐらいに止まっていたんですが、2年前、中うち八へんに出会いました。

地域の有機農家が集まる勉強会で僕の発表の番がまわり、ぎなぎなやってお米どうせやるならと、無農薬での稲作を調べることに。そこで辿り着いたのが中うち八へん。中うちとは江戸時代、田植え後の中耕除草作業のことを中うちと呼んでいたようで、北陸のどっかの藩の農業指導者が通常3回ぐらいの中うちが一般的な時代に6回入るとたくさんコメが取れるぞと言って、実際にそれで飢饉を免れたという話をもとに、東北の大学で研究がされて、結果8回以上入ると収量が無肥料でも慣行農法なみになるといって、からこの名がついたようです。

実際、一昨年から少しずつ試していて8回入ると明らかにそれまでの僕の田んぼとは様子が違いました。これは水中で増殖する光合成細菌をすきみ続けることで稲の養分となり米がたくさん実るようです。僕はその目では見えない菌たちが陽を浴びて勝手に増えて中うちすることで米が育つというミラクルな仕組みに惚れこみ、今年はそのための新たな機械も導入しました。今後もしわじわ増えるだろうこの地域の田んぼ、僕に託されたなら全部うち一本で行こうと思っています。あー楽しみ！

(支援者 寺園 風)

## 年次総会を終えて

コンビニの会 理事

宮川 優子

さる6月19日（水曜日）午後2時より特

定非営利活動法人コンビニの会の年次総会が研修室で開かれました。平日午後の開催で会員の皆様の多くが委任状出席となりました。今年の総会ではいくつかの重要な決定がなされましたので報告いたします。

まず、エゼル福祉会が建設する福祉マンションさんびに對しての寄付です。長らく活動の拠点とした中小田井の建て替えについて

議論する中でコンビニの会が主体となってバリアフリーの住まいを建てる案も選択肢の一つにありました。結局、社会福祉法人の公益事業として建設することに決まりました。ところが昨今の建設資材、人件費の高騰で当初の計画を上回る資金が必要になり、本人の事業主旨から考え、金銭による協力を申し出ることにしました。修繕積立費として準備していた資金を取り崩すことになりましたが、今後の修繕計画に無理のない範囲に納まつたと思います。

また、先回の会報で会報購読料の振込みをみなさまにお願いしました。第三種郵便として認められなくなる可能性を訴えたところ購読料に加え、多くの皆様から寄付まで頂き感謝に耐えません。おかげさまでネットによる会報の購読、郵送の停止などの連絡を頂き

ました。送付先を絞り込むことで第三種郵便として継続できる見込みです。お手間を取らせることになりましたが、新規購読の申し込み、メールや振込取扱票に書かれた近況やメッセージに励まされました。

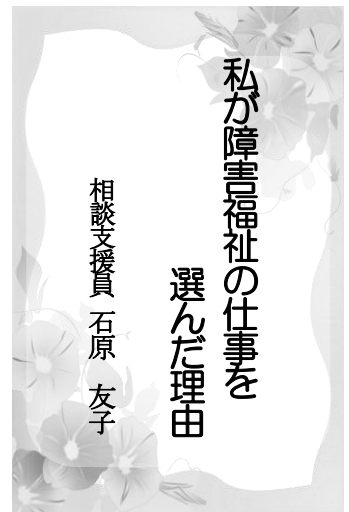
そのほか、障害のある方への余暇活動支援を充実させるための話し合いがもたれました。利用を増やすために手続きなどの周知を徹底したいと思います。コロナによる活動制限が外れましたのでスポーツ観戦、映画鑑賞、コンサート、イベント主催などワクワクする体験を増やしたいものです。

どうぞ、引き続きエゼル福祉会、コンビニの会へのご支援よろしく申し上げます。



## 私が障害福祉の仕事を選んだ理由

相談支援員 石原 友子



毎日NHKで手話ニュースが放送されています。昔の聾学校では手話が禁止されていたことを知る人も少なくなっています。手話が当たり前前に社会に認められ、受け入れられているこの状況はともううれしいことです。手話を禁止していても、聾学校の門を出れば生徒たちは手話を使って会話をしていたのです。私の姉もその一人でした。私は幼いながら、「耳の聞こえない人が手話を使っているのなら、禁止しなくてもよいのに」「なぜ聾者の意見を聞かないのか

な」と単純に思っていました。

「私たち抜きに私たちのことを決めないで」というスローガンに近い考えでしょうか。そんな私ですが「手話」はできません。聾学校の教育に忠実だった母が「手話」を使うことをとても嫌がったからです。大きく手を動かす仕草を恥ずかしい、と母は思っていました。時代が変わり、手話が徐々に受け入れられるようになって、母の考えは昔のままでした。姉は今、聾学校の子どもたちが通うデイサービスで職員として、耳の聞こえない子どもたちと一緒に楽しく過ごしています。聞けないことにとって、姉は頼りになる存在のようです。

私が育った地域にある社会福祉法人は保育園や障害者施設を持っており、夏と冬には

大きなバザーが開かれていました。公園の舞台で大きな声で楽しそうに歌う知的障害者の方、一生懸命話しかけてくれる方、ポツンと一人でのみ過ごしている方、自分の世界に没頭している方など、様々な方に出会いました。身体障害者は身近だったけれども、他にも障害を抱えた方はたくさんおられることを学ぶことができました。

また同世代では心の病に苦しんでいる方もあり、子育てが始まると子供の障害で悩む友もありました。その障害は様々でしたが、今でも忘れられないのが、お子さんを精神の病で亡くされた友達です。親として、自分のこどもに先立たれる、しかも自死という悲しい別れを体験しなければいけなかったその辛さは軽率に言葉には表すことはできません

ん。

統合失調症と向き合いながら頑張って生活している知人とメールでやりとりをしていたところに、近くの知的障害者施設での求人を知りました。知人とのメールのやりとりは、消費税アップに関するものからペットの小鳥のこと、自宅前にコメがばらまかれ、部屋には盗聴器がしかけられている、ということなど彼女にとっては真実のことばかりでした。彼女が真実と受け止めていることに対して、私も共感するうちに、どのような障害を持った方でも、その方の考えに共感して寄り添うことの大切さを感じました。障害は違っても、知的障害者の方と一緒に考え、ともに仕事をして、毎日の生活の中に喜びを感じることができたら楽しいのではないかと、楽

しいに違いない、と思い仕事として選ぶことにしました。

身体、知的、精神障害に加え、高次脳機能障害や難病、神経発達症（発達障害）など「障害」の範囲は広がっています。ひとつの障害だけでなく、重複障害の方も多く、家族関係などは複雑に絡み合い、困難事例も後を絶つことがあります。

このように書くと暗くなってしまうですが、テレビでは障害関連の番組も充実しています。国連勧告を受けた時は「バリバラ」が特集を組み、今年の1月には「ハートネットTV」が2週にわたり強度行動障害を取り上げていました。

今、時代の流れはとても早く、手話が禁止されていた時とは比べ物になりません。障害

に対する社会の流れが、今までより加速して良くなっていくに違いありません。どのように良くなっていくのか、傍観者の立場より当事者として関わっていきたい、と強く思います。

エゼル福祉会の相談員としての仕事に心を込めて取り組み、この地域で共に生きていくことができる喜びを分かち合うことができましたら私はとても幸せです。



よろしくお願いします



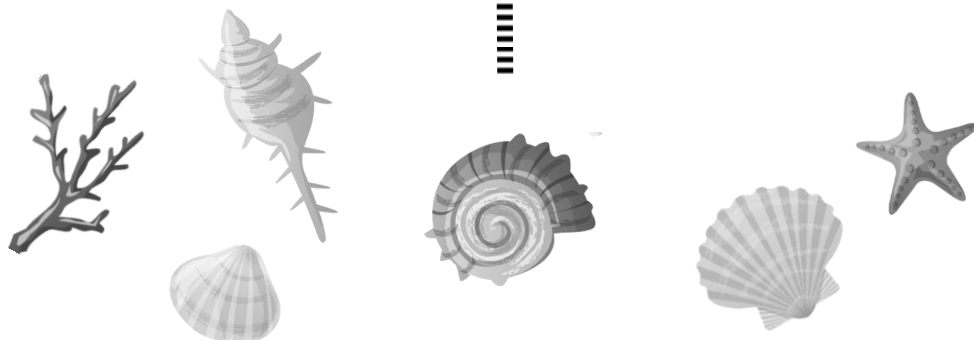
## 《活動状況》

### 5月

- 6日 W I L L ・ V O L O 祝日開所
- 4日 音楽サロン開催  
牛嶋とし子(ジャズピアノヴォーカル)
- 12日 重度訪問介護従業者養成研修(2日目)
- 13日 運営会議
- 15日 同朋大学寄付講座 講義(馬渕)
- 17日 福祉マンション「さんび」入札
- 19日 重度訪問介護従業者養成研修(3日目)
- 21日 同朋大学訪問(北出)
- 22日 愛知淑徳大学二宮先生VOLO来所
- 24日 福祉マンション「さんび」起工式
- 27日 会報発送
- 29日 名古屋市役所訪問(榊原)
- 31日 エゼル福祉会 監事会
- 31日 名古屋生活支援事業所連絡会会議(渥美)

### 6月

- 1日 音楽サロン開催  
加藤訓菊(津軽三味線)
- 1日 サンホープまつり出店(製菓販売)
- 5日 会報会議
- 7.8日 社会福祉士実習指導者講習会(木村)
- 9日 エゼル福祉会 理事会
- 10日 利用者連絡調整会議
- 14日 みなと福祉会訪問(榊原)
- 19日 通所利用者 健康診断
- 19日 NPOコンビニの会 総会
- 23日 エゼル福祉会 評議員会
- 24日 同朋大学訪問(篠田)
- 24日 利用者ケース会議
- 27日 利用者親の会
- 28日 名古屋生活支援事業所連絡会会議(渥美)
- 30日 障全協議会(榊原)

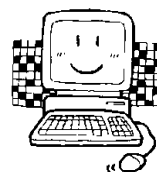


## 事務局コーナー



## 「ご協力ありがとうございました」

5月～6月（敬称略・順不同）



## ★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

安永麻里 高嶋一臣 塩澤しのか

高田真由美 滝藤建設株式会社

(VOLO)

石原優樹 塩澤しのか 久保昂太郎

## ★ 会報発送ボランティア

半田素子 佐藤美紀子

丹羽正子 藤田ますえ

吉田嘉子 渡辺世津子

山田喜代子 野村加余子

## ★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

石原正寅 辻本道子 東原光江

石原まち 鈴木千春 寺西 剛

田村淳仁 林 京香 西 亮憲

後藤 楓 本島朋子 桐澤 潮

鈴木悠太 我妻勇男 上田悠仁

小林愛恵 重松歩月 青島優津樹

白木侑叡 渡部陽妃 酒井まみ子

山本 武 松井暖実 榊原つぐみ

梶田里奈 北出麻衣 森 奈留美

杉浦小椰 玉那覇詠洸

佐藤晴紀 長谷川美緒

## ★ 会報購読料1万円以上お振込み頂いた方 ★

(2024/5/1～6/30)

伊藤衿子 渥美光子 杉浦正敏 平田陽子 高田一雄

中島温子 森本経子 辻 正弘 柳野友美 原 康子

浜島拓也 水野慎二 大竹園子 浅野多美子

滝藤建設(株) 匿名

ご支援頂き、誠にありがとうございました。

## ～ 福祉マンション「さんび」近況報告 ～

### ■ 工事業者 入札 ■

施設建設工事会社入札を理事長、評議員、理事、監事、株式会社加藤建築事務所、名古屋市立ち会いのもと決定しました。

日時：2024年5月17日（金）14：00～

場所：エゼル福祉会 研修室

入札参加件数：3件（うち2件辞退）

入札決定会社：滝藤建設株式会社

入札決定金額：316,000,000円（税抜き）



### ■ 福祉マンション「さんび」起工式 ■

日時：2024年5月24日（金）10：30～

場所：名古屋市西区中小田井二丁目431番地

日本キリスト改革派名古屋教会の牧師様と野の百合コーラスの皆様（合計9名）、エゼル役員（6名）、カメラマン（長谷川様2名）、利用者さん（4名）、利用者親御さん（4名）、建設関係（4名）、関係者（2名）、エゼル職員（8名）総勢38名で行われました。※起工式の様子は最終カラーページをご覧ください





## 「さんび」起工式に 参加して

●VOLLO利用者 高嶋 一臣 母

エゼル福祉会 親の会 会長 高嶋 みえ

エゼル福祉会の福祉マンシヨンの起工式

に親の会を代表して参加してきました。目の前が公園ということもあり、薫風がとても気持ちの良い日でした。子供たちも参加してくれていたの、みんなでつくっていくよ!というような温かい会となりました。キリスト教の起工式なので、一風変わったものでした

が、讃美歌が流れると子どもたちは笑顔になり、声を出して一緒に歌っていました。何年も前からみんなで話し合い、障害のある子供たちが幸せに暮らせるようにと計画した、みんなの夢の詰まったマンシヨンが、やっと動き出しました。そんな大切な日を共有させて頂き、嬉しかったです。

私たち親の会も少しでも力になりたいと寄附金集めを始めました。障害のある子どもたちの未来を応援して頂けたら嬉しいです。よろしくお願い致します。

※次ページの「子どもの未来応援寄附金」のチラシをご覧ください

●VOLLO利用者 久保 昴太朗 母

久保 直子

起工式が執り行われた日は5月にしては日射しが強く暑い日でしたが「さんび」に集

う人々を包み込み、祝福するような爽やかな風が吹いていました。

神式の地鎮祭は参加したことはありませんでしたがキリスト教式の起工式は初めてです。始まるまでちよつとドキドキ、そわそわしましたが地鎮祭の厳かな雰囲気とは異なり聖歌隊の優しい歌声、山口牧師の穏やかな声の説教に温かみのある式となり、安心感を得られました。施設ではなく地域で暮らしていくことを目指した「さんび」にふさわしいアットホームな始まりでした。

多くの課題を乗り越え、建設に御尽力下さった大川理事長をはじめ関係者の方々に深く感謝いたします。息子と共に完成を楽しみにしています。



障害のある

# 子どもの未来 応援寄附金



障害があっても、自分らしい生活を諦めたくない。

親亡き後も幸せに暮らしてほしい。

こんな願いを叶えるマンションがエゼル福祉会から誕生します。

4年前から、法人、職員、仲間、親で建設内容を検討し、  
やっとスタートをしようと思っていた矢先、建築費用の価格高騰。

表示された費用は驚くほどでした。

子どもたちのためにと資金の見直しをしました。まだ足りません！

私たち親も少しでもお役に立ちたいと寄附金集めを開始しました。

どうか私たちにお力をお貸しください。

障害のある子どもたちの未来を応援していただけませんか？

エゼル福祉会親の会 会長 高嶋みえ

## 建設資金計画

・設計管理費	18,040,000円
・建設費用	347,600,000円
・建設予備費	8,000,000円
合計	<u>373,640,000円</u>



## 準備資金内訳

・法人負担金	145,925,345円
・銀行借入金	179,714,655円
・NPO寄附金	40,000,000円
合計	<u>365,640,000円</u>

子どもたちの未来を  
応援して下さい。

振込先

ゆうちょ銀行 二一八 普通 8152780

エゼル福祉会 親の会

※ご寄附は一口 2,000円とさせていただきます。  
寄附控除可能な領収証を発行致します

## ★ 子どもの未来応援寄附金についてお願い ★

ご寄付していただく際に、コンビニの会の口座ではなく

上記「エゼル福祉会 親の会」の口座にお振込みください。

領収書が必要な方はお振込み後、「お名前」「ご住所」を

「子どもの未来応援寄附金」と分かるように電話・FAX・メールにてご連絡ください。

電話・FAX (052) 505-6082 メール convini@ezeru.or.jp

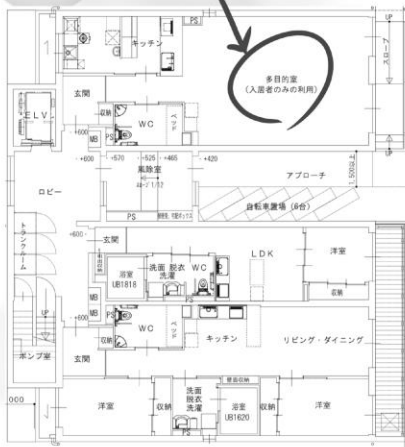
# 福祉マンション さんび 平面図

名古屋市西区中小田井二丁目431番地

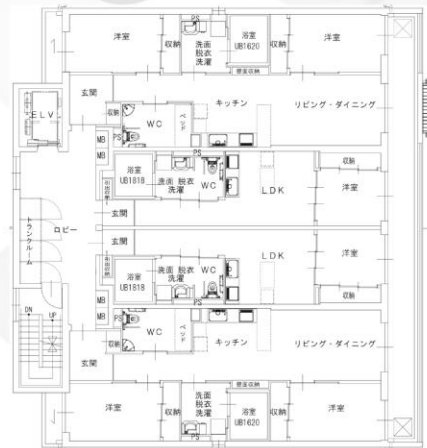


新しい投資事業  
始めよう。

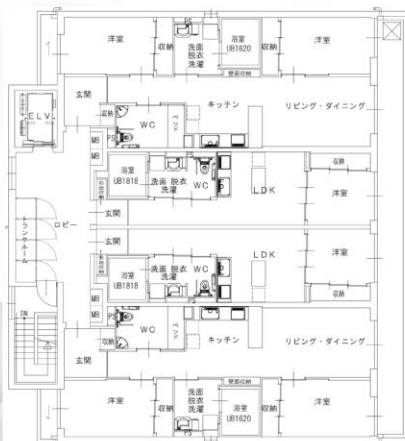
週末Cafe  
開催!



1階



2階



3階

ル・ムタイプは 2タイプ  
シエール・ム(2LDK) × 5  
シングル・ム(1LDK) × 5  
15名

みんなの夢がここに

*Dream House*

## 福祉マンション「さんび」起工式

日時：2024年5月24日（金）10：30～

場所：名古屋市西区中小田井二丁目431番地



山口牧師からは福祉マンションの名称「さんび」について聖書からお話していただきました



聖歌隊の美しい歌声が響きました



工事関係者の皆様の健康が守られ、安全な工事が進められますように…と理事長のあいさつ



利用者さんも参加されました

### 【銀行口座】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238（普）口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

URL <https://ezeru.or.jp/>

E-mail [convini@ezeru.or.jp](mailto:convini@ezeru.or.jp)



## コンビニの会

理事 宮川 優子